

統合新会社の経営理念

経営理念

パーパス／存在意義

化学の力で社会を変える

～先端材料パートナーとして時代が求める機能を創出し、
グローバル社会の持続可能な発展に貢献する～



バリュー／私たちが大切にしている価値観

プロフェッショナルとしての成果へのこだわり

仕事に情熱と誇りを持つ
実力主義、成果にこだわる
結果、グローバルで認められる
一流としての実力を持つ

機敏さと柔軟性

挑戦を称賛し
失敗に寛容になる
思考と行動に柔軟性と
スピードを持つ
結果、組織としての
基本速度をあげる

枠を超えるオープンマインド

互いへの信頼と尊重を示す
オープンに、領域を定めず
関わりあう
結果、内外のステークホルダーと
の共創を実現する

未来への先見性と高い倫理観

化学と真摯に向き合う
数世代先の未来を見通す
先見性を持つ
化学技術への自律した倫理観と
全てのステークホルダーに
対する誠実さを持つ

当社のパーパス「化学の力で社会を変える」には、お客様の先端材料パートナーとして

時代が求める機能を創出し、グローバル社会の持続可能な発展に貢献するという思いが込められています。

このパーパスに加え、私たちが大切にしている価値観として、

「プロフェッショナルとしての成果へのこだわり」「機敏さと柔軟性」「枠を超えるオープンマインド」

「未来への先見性と高い倫理観」を定め、これらをパーパスと合わせて

統合新会社の経営理念としました。今後この経営理念をグループグローバルで共有し、

統合新会社が一丸となって事業に取り組むと共に、「共創型人材の創出」を目指していきます。

価値創造モデル「共創型化学会社」

これからの化学メーカーには、人々の生活を豊かにするだけでなく、環境への影響を考慮し持続可能な社会の実現に貢献することが求められています。当社は、グループだけ、化学産業だけに閉じた取り組みではなく、志を共にする内外のステークホルダーや共同体などとの連携を通じてよりよい社会を共創する「共創型化学会社」として、価値を創造していきます。

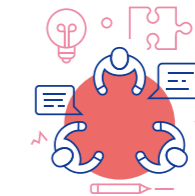
共創型化学会社としての事例



次世代半導体パッケージの
評価技術・材料・基板・装置の開発を
行うコンソーシアム「JOINT2」の
設立

➔ P.45

ポスト5Gへの対応に必要となる2.xD/3D実装などの次世代半導体実装技術を開発するため、参画企業12社(昭和電工マテリアルズも含む)と共にコンソーシアム「JOINT2」を2021年10月に設立しました。お客さまに対し、当社と他社の材料・装置・部材を組み合わせた最適な提案を実現します。



社内外との共創による
長期R&Dの場「共創の舞台」の
始動

➔ P.57

横浜市で始動した「共創の舞台」では、社内外の多様な人々と連携しながら、持続可能な社会の実現に貢献する長期の研究開発テーマ「次世代高速通信材料」「プラスチックリサイクル」への取り組みを推進しています。



ICCA(国際化学工業協会協議会)の
エネルギーと気候変動分野の活動を
リード

➔ WEB

ICCAは世界各国の化学業界団体からなる協議会であり、当社は日本化学工業協会の代表として参画しています。化学業界が世界で直面する社会課題を検討するICCAの五つの分科会のうち、当社はエネルギーと気候変動分野への対応グループ(E&CC LG)の議長として、活動を主導しました。



お客さまの期待・創造を超える
ソリューションを提供するための従業員
参加型活動を実施し、「グローバル
ミーティング」として共同開催

➔ P.77

2021年のグローバルミーティングには、世界7カ国から約500名がオンラインで参加しました。2020年まで両社別々に開催していた選考会を共同開催したことで、ベストプラクティスの共有や人材交流が図れました。相互にとって良い刺激の場となり、共創のきっかけが生まれつつあります。

HDDの次世代記録技術MAS-MAMRに対応した
HDメディアの開発 ➔ P.44

SiCパワー半導体向け6インチ単結晶基板の量産開始 ➔ P.44

MI (Materials informatics) による開発力強化の推進 ➔ P.47

次世代技術や産業を支える当社独自のイノベーション事業 ➔ P.49

共創型人材の育成 ➔ P.55

ハイブリットの戦い方を具体化する技術「WelQuick」 ➔ P.59

「T-AI」導入による適正在庫管理の実現 ➔ P.61

自律的な共創活動サークル：Dchemical ➔ P.73

カーボンニュートラルへの取り組み
「CO₂分離回収・利用の実現」 ➔ P.52

プラスチックケミカルリサイクル事業の推進と
大規模水素利用に向けた共創 ➔ P.52

DXによる鉄リサイクルプロセスにお客さま価値の最大化 ➔ P.52

ライフサイエンス事業における人々の健康と豊かさへの貢献 ➔ P.53

再生可能エネルギー活用による黒鉛電極の製造 ➔ P.64

GHG除害装置 ➔ P.64

LCA(CFP)への取り組み ➔ P.64

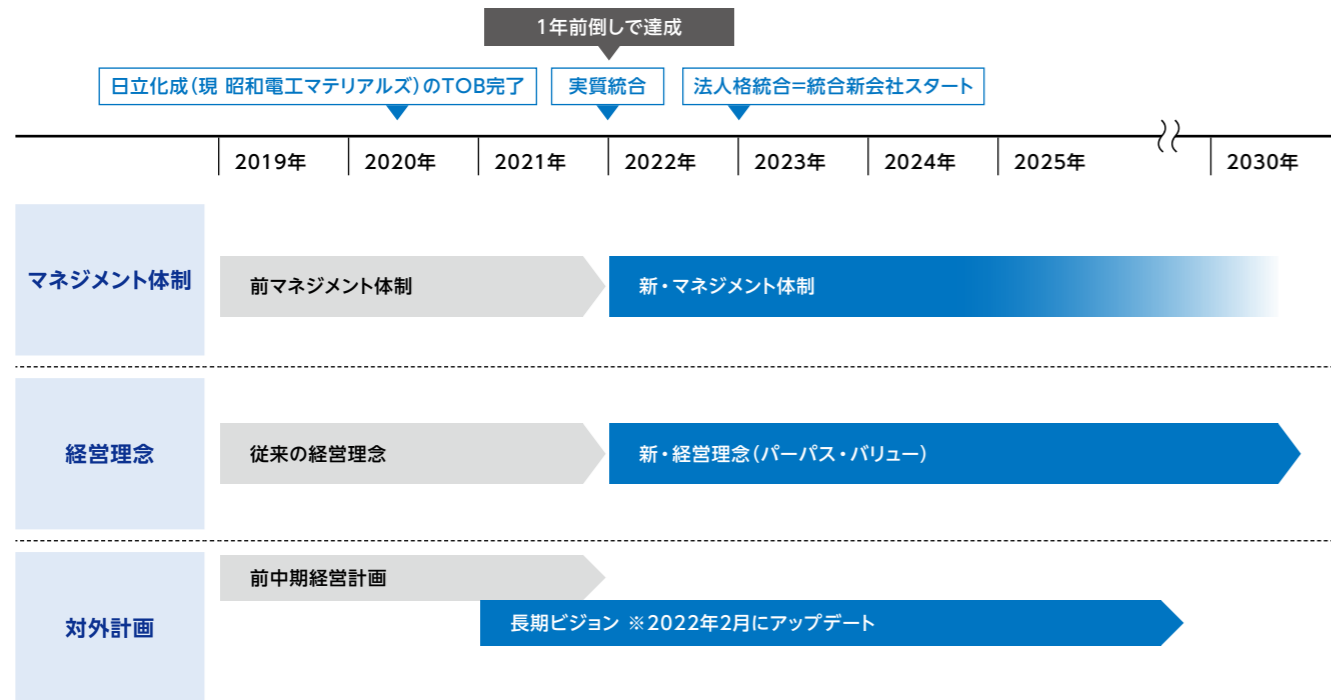
統合進捗と新組織体制

統合プロセスの推進

1年前倒しで経営組織体制を統合

2019年の旧 日立化成(現 昭和電工マテリアルズ)の買収発表以来、昭和電工と昭和電工マテリアルズの統合に向けた作業は順調に進捗しています。

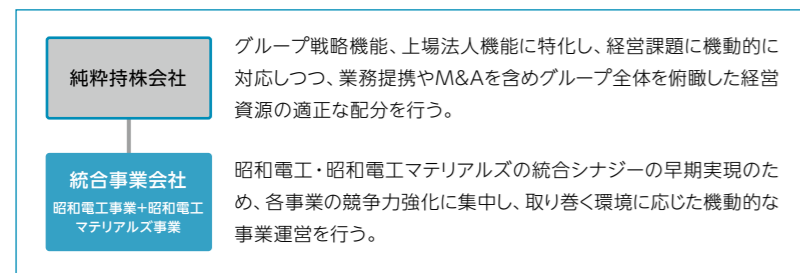
2022年1月には両社の経営体制を一本化し、社長以下12名の両社共通の執行役員が両社のマネジメントを遂行する体制を整備し実質的統合を実現しました。また、新マネジメント体制と新経営理念の始動に伴い、2020年12月に公表した長期ビジョンのアップデートを行いました。



今後、当社グループの目指す姿を実現し企業価値の最大化を目指す中で、グローバルな社会課題を解決して持続的な企業価値の創造を可能とするポートフォリオ経営を加速していきます。これらを実現する最適な組織体制を目指すべく、持株会社体制への移行に向けた具体的な検討を進めています。

現在、六つの重点管理項目を定めてPMIを順調に進めており、2023年1月の持株会社と事業会社の持株会社体制への移行について、2022年9月の正式決定を目指しています。

※ 社名変更および持株会社体制への移行は、2022年9月下旬に開催予定の両社臨時株主総会で承認されることが条件となっています。

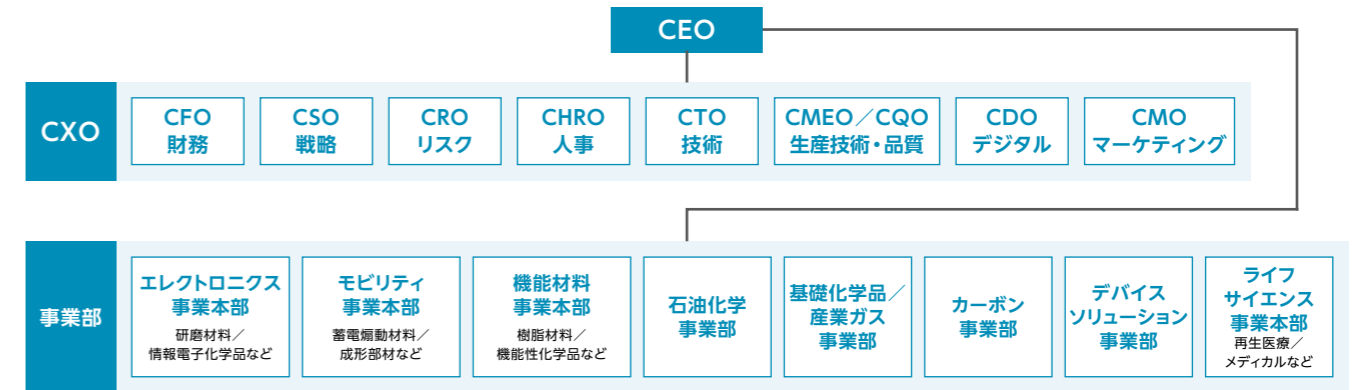


組織体制の移行

現在、執行役員は両社兼務とし、各機能領域を各CXOが統括しています。また、2023年1月にエレクトロニクス、モビリティ、機能材料、ライフサイエンスの事業本部の立ち上げを予定しており、現在、設置準備室を設け、事業部・事業所の実質統合を進めています。

同年同月に持株会社体制への移行を予定しており、国内外のグループ会社も各事業本部長などの管掌の下、グループ一体となった活動を進めていきます。

2023年に向けて始動した経営体制



※事業本部は現在、設置準備室として活動中

2023年1月「第二の創業」へ



統合新会社として新たな一歩を踏み出すために、両社統合に合わせて社名を「株式会社レゾナック」に変更することとしました。

当社グループは、新社名でのスタートを「第二の創業」と捉え、グループ内や化学業界だけでなく、さまざまなステークホルダーとの共創を通じて、先端材料パートナーとして時代が求める機能を創出し、グローバル社会の持続可能な発展に貢献していきます。

社名およびロゴに込めた想い

「Resonac」は、英語の「RESONATE:共鳴する・響き渡る」と、CHEMISTRYの「C」を組み合わせることから生まれた社名です。当社グループの持つ幅広く自在な先端材料テクノロジーと、パートナーの持つさまざまな技術力と発想が強いつながり一つの未来に向かって大きな「共鳴」を起こし、その響きが広がることでさらに新しいパートナーと出会い、社会を変える大きな動きを創り出していきたいという強い想いを込めています。こうした想いを表すため、「Resonac」のロゴデザインにある「R」に右上がりの2本線を施し、共鳴から生まれる共創のシンボルとし、共鳴の輪が広がり共に未来へ挑戦する姿勢を表現しました。

持株会社
株式会社レゾナック・ホールディングス(Resonac Holdings Corporation)

統合新会社(事業会社)
株式会社レゾナック(Resonac Corporation)